

大館市教育委員会会議録

日 時 令和7年5月30日（金）
午後3時30分
場 所 中央公民館
多目的室

大 館 市 教 育 委 員 会

大館市教育委員会会議録

1	開会の日時	日 時	令和7年5月30日（金）		午後3時30分
	及 び 場 所	場 所	中央公民館 多目的室		
2 出席委員の氏名					
教育長職務代理人		山 田 和 人	委 員	工 藤 啓 子	
委 員		小笠原 正 卓	委 員	真 田 かずみ	
3 欠席委員の氏名					
4 委 員 以 外 の 出席者職氏名		(なし)			
5 出席した職員の職氏名					
教 育 長	長 岐 公 二		学校教育課長補佐	工 藤 貴 胤	
教 育 次 長	若 松 健 寿		学校教育課長補佐	柴 田 賢	
教 育 監	野 呂 謙 一		生涯学習課長補佐	羽 沢 秀 則	
教 育 総 務 課 長	北 林 香 子		中 央 公 民 館 長	外 館 志	
学 校 教 育 課 長	鈴 木 明		歴史文化課長補佐	鳥 潟 幸 男	
教 育 研 究 所 長	米 澤 貴 子		教育総務課総務係長	三 浦 伸 介	
生 涯 学 習 課 長	畠 山 慶 子				
歴 史 文 化 課 長	関 智 仁				
教育総務課長補佐	宮 崎 史 人				
6 会議録署名委員 教育長・工藤委員					
7 会 議 書 記 教育総務課 総務係長 三浦 伸介					
8 教育長報告					
(1)	大館市学校運営協議会委員の任命について				
(2)	大館市教育支援委員会委員の任命について				
(3)	令和7年度「子供の読書活動優秀実践団体」に対する文部科学大臣表彰について				
(4)	令和7年度ラジオ体操会開始大会について				
(5)	「塚ノ下遺跡出土土偶」の出陳について				
9 議 事					
議案第9号	令和6年度教育委員会の点検・評価表について				
議案第10号	令和7年度教育委員会の点検・評価項目について				
協議第9号	城南小学校校門前の除雪機による賠償事故に関する専決処分について				
協議第10号	令和7年度一般会計補正予算（第1号）案				
10 その他					
(報告) 一般財団法人大館市文教振興事業団 指定管理施設令和6年度事業報告					
(報告) 第1回市長との政策協議について					
(口頭) 令和6年度 秋田県学習状況調査 児童生徒質問調査について					
(口頭) 大館ふるさとキャリア教育 みんなのまなびしんぶんについて					
次回		6月25日（水）		中央公民館 多目的室	

教育長が教育委員会に報告する事項

令和7年5月30日

担当課（学校教育課）

報 告 事 項	報 告 内 容
大館市学校運営協議会委員の任命について	各小中学校の学校運営協議会の委員を任命しましたので、報告します。 ・任 期 自 令和7年4月 1日 至 令和9年3月31日
大館市教育支援委員会委員の任命について	大館市教育支援委員会の委員を任命しましたので、報告します。 ・任 期 自 令和7年4月 1日 至 令和9年3月31日

教育長が教育委員会に報告する事項

令和7年5月30日

担当課（生涯学習課）

報 告 事 項	報 告 内 容
令和7年度「子供の読書活動優秀実践団体」に対する文部科学大臣表彰について	・受賞団体：読み聞かせボランティアサークルおはなしの森 代表 遠藤 順子 ・活動内容 本団体は、平成17年に開催された「県北地区読み聞かせサポーター実践講座」（主催：秋田県教育委員会）の受講者有志で結成された。以後、メンバーを増やしながら活動を広げ、会員数14名の規模となっている。 栗盛記念図書館を拠点とし、毎週木曜日に定例会を開いて打合せや練習に励んでおり、毎月の「おひぎにだっこのおはなし会」のほか、「図書館まつり」や「春のおはなし会」など、季節ごとに特別なおはなし会を開催し、好評を得ている。 そのほか、ブックスタート事業における読み聞かせ、市内中学校の保育実習での読み聞かせ講座など、多くの活動に意欲的に取り組み、子どもの読書活動推進に寄与している。 ・表彰式等 表彰の決定：令和7年3月 7日（金） 表 彰 式：令和7年4月23日（水） 会 場：オリンピック青少年センター（東京） 表彰式は欠席したため、秋田県を通じて栗盛記念図書館へ郵送され、5月15日（木）に教育長へ受賞報告した。



教育長が教育委員会会議に報告する事項

令和7年5月30日

担当課（中央公民館）

報 告 事 項	報 告 内 容
令和7年度 ラジオ体操会 開始大会について	4月26日（土）城南小学校グラウンドにて、令和7年度ラジオ体操会開始大会を開催しました。 本大会は、ラジオ体操の普及を通じた市民の健康増進及び参加者相互の交流を深めることを目的として、毎年、秋の終了大会と合わせて実施しています。 今年度は、従来の町内団体に加え、4月3日に開催された校長会を通じて市内17の小学校へ案内を配布し、広く一般からも参加者を募りました。 大会当日は天候に恵まれ、約100名の参加者が、大館市ラジオ体操の会の大沢睦子氏及び同会会員による模範演技に合わせて、ラジオ体操第一、首の体操、そしてラジオ体操第二を行い、春の爽やかな空気の中で心地よく体を動かしていました。 世代間の交流も活発に行われ、児童から高齢者までが一体となって楽しむ姿が見受けられ、大変有意義な会となりました。今後とも、市民の健康増進と地域コミュニティの活性化につながる事業を推進してまいります。 なお、小学生の参加者には参加賞を配布しました。 【概要】 令和7年4月26日（土）7：00～8：00 城南小学校 グラウンド 【来賓】 大館市ラジオ体操の会 副会長 石川 久晴 氏 【参加者】 8団体 約100名（一般参加児童20名を含む） ※期間内の総参加者数は13団体、約500名を見込んでいます。   ラジオ体操 実践 小学生へ参加景品を配布

教育長が教育委員会に報告する事項

令和7年5月30日

担当課（歴史文化課）

報 告 事 項	報 告 内 容
「塚ノ下遺跡出土土偶」の出陳について 塚ノ下遺跡出土土偶 (H23県指定) 	t b c 東北放送と東北歴史博物館が企画・制作し、1府2県で開催される特別展「世界遺産 縄文」へ、当館所蔵の「塚ノ下遺跡出土土偶」を貸し出し、展示公開することとなりました。 この特別展は、世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」と南東北の縄文遺跡群から出土した資料を中心に、日本列島北部で展開した「北の縄文文化」を取り上げ、「一万年、一生、一年」という三つの時間軸を用い、縄文文化の成り立ちと進展・変容、文化を担った縄文人、そして縄文の一年の暮らしを通じて当時の社会の在り方を紹介する内容となっています。 今回の出陳は、2009年9月に大英博物館で開催された文化庁海外展「THE POWER OF DOGU」での展示に続く2度目の貸し出しで、八戸市是川縄文館所蔵の合掌土偶(国宝)や、東北各地の国や県指定の重要文化財とともに展示されます。 多くの市外、県外の方に見ていただけるこのような機会を活かし、今後も積極的に出陳を行い、大館市の宝を広く発信してまいります。 【宮城会場】 ・会 場 東北歴史博物館（宮城県多賀城市） ・期 間 7月12日（土）～9月15日（月・祝） ・主 催 「世界遺産 縄文」宮城展実行委員会 (t b c 東北放送、河北新報社、東北歴史博物館) 【京都会場】 ・会 場 京都文化博物館（京都府京都市） ・期 間 10月4日（土）～11月30日（日） ・主 催 京都府、京都文化博物館、MBS テレビ、朝日新聞社 【群馬会場】 ・会 場 群馬県立歴史博物館（群馬県高崎市） ・期 間 1月17日（土）～3月8日（日） ・主 催 群馬県立歴史博物館

議 事 の 経 過	
	開会 午3時30分
教育長	ただ今より教育委員会会議を始めます。 会議録署名委員については、私と工藤委員にお願いします。 会議録についていかがだったでしょうか。 (「異議なし」の声あり) それでは、承認とさせていただきます。 初めに、4の教育長の報告事項をお願いします。
各課長	(「(1) 大館市学校運営協議会委員の任命について」 「(2) 大館市教育支援委員会委員の任命について」 「(3) 令和7年度「子供の読書活動優秀実践団体」に対する文部科学大臣表彰について」 「(4) 令和7年度ラジオ体操会開始大会について」 「(5)「塚ノ下遺跡出土土偶」の出陳について」 を、資料により報告)
教育長	ご質問、ご意見等はございませんか。
委員	(3) についてですが、受賞された読み聞かせボランティアサークルおはなしの森の遠藤順子さんの、何度もやめたいと思ったけれど、子どもたちの「次はいつ来てくれるの?」という言葉に励まされて続けてきましたというお話を聞いて、子どもたちの一言一句が力になっているということを実感しました。 子どもたちの笑顔とか励ましの声で教員も含め、大人が元気になるということを感じましたし、子どもたちに励まされて私たちも頑張っていきたいと思いました。
教育長	おはなしの森は20年間ずっと継続しているだけでなく後継者の育成もしています。「おひざにだっこのおはなし会」というネーミングセンスが非常にいいですね。バイタリティーあふれる活動をしていると感心させられました。お話が上手く、相手を夢中にしてくれるので、受賞報告の際も盛り上がりまして、ひょっとして元教員の方なのかなと思ったのですが、一般の主婦の方で驚きました。
委員	知り合いの保護者にも、学校での読み聞かせをする際に、どうすれば子どもたちを引き付けることができるかについて、様々な工夫をしている方がたくさんいらっしゃいますので、このような機会は大事だと思いました。 ほかに読み聞かせのボランティアサークルはどのくらいあるのでしょうか

	か。
生涯学習課長	大館には現在4つのサークルがありまして、それぞれ小中学校や公民館などに出向いて活動されています。その中でも一番人数が多くて、たくさん活動されているのがおはなしの森と伺っています。
委員	ご参考までにお話しします。塚ノ下遺跡出土土偶のご説明の中で、アスファルトという言葉がございましたが、私はアスファルトが埋め込まれた土偶というのはあまり聞いたことがありません。 ではなぜアスファルトが埋め込まれているのかということ、秋田県は原油の生産地が多く、八橋から豊川にかけて油田の跡地がありますが、それが県北まで伝わっていたのではないかと考えられます。だから土偶の修復にアスファルトを使うという文化が生まれた。そういった歴史的背景を、改めて教えてくれる非常に貴重な土偶だと思っています。
教育長	ほかにございますか。 ないようですので、議事に移ります。議案第9号及び第10号について説明をお願いします。
各課長	（「議案第9号 令和6年度教育委員会の点検・評価表について」 「議案第10号 令和7年度教育委員会の点検・評価項目について」 を、資料により説明）
教育長	ご意見、ご質問等はございませんか。
委員	おおむね目標どおりということで、これだけの事業を緻密にしかも地道に行うというのは、本当に敬意を表します。ただし、達成率は目標どおりが95～100パーセント、目標をやや下回るが80～94パーセントという表現ですが、何を基準にしてこの数字があるのかが気になりました。 経済的な活動とか理科の実験とは違って数値化するのが非常に難しいとは思いますが、ある程度基準になるものを指標として示した方が、説得力があるのではないかと考えます。この点について、どのようなご判断をされているのかお伺いします。
教育総務課長	事業の内容や目標によって異なると思いますが、予算に対して必要なものを執行できたかというのが、ひとつの大きな指標になると考えられます。そのほかには、各事業によって当初目標として掲げた数値に対して、達成できたかというのが基準になると考えられます。来年度は、当初の目標が何を指していたのかをもう少し分かりやすく説明できるようにしたいと思います。
委員	そういったものがあればなお良いと思いますので、よろしくお願いします。

教育長	点検・評価制度ですが、学校の場合は学校関係者評価というものがありまして、各職員や子ども、保護者などに全てアンケートを行って、その結果を数値化したものを基準にしています。そう考えると、確かに評価の基準について指摘されてもおかしくはないと思います。次回の課題ということでよろしいかなと思います。
委員	多くの施策がありますが、おおむね目標どおりということで、改めて皆さんのご尽力に感謝します。各課からピックアップしてご説明がありましたが、目標を上回るとか下回るといった施策もありましたので、来年度はその点についてもご説明いただけると非常に分かりやすいと思います。 全体を見ましたが、施策の中で市民の方々のニーズを把握するという課題がいくつか見られました。やはりそこが大事な部分だと思いますので、いろいろと工夫して頑張っていただきたいと思います。
委員	13ページに記載されている教育ツーリズムによる「本質を追い求める教員が集う街」の実現についてですが、言葉を選ばずに言いますと、今までは視察に来た人数だけを評価しているように感じていたのですが、今回の点検評価では、大館の教員にとって本当に役立つものを得ることが評価項目に表れていました。 また、校長会が調整役を主体的に行ったとか、そういう部分でも教員の資質向上に役立てるようになってきたのは大変ありがたいと感じました。以前に地元紙の記事で読みましたが、視察プログラムの中に、視察に来た団体側が進行役をして懇談をするという取り組みがありまして、非常に魅力的だと思いました。そういったところもアピールしながら、この施策を進めて行ってほしいと思います。
教育長	視察に来る自治体は予算を使うことになりますので、当然それぞれの成果を求めますし、こちらとしても教育委員会の大きな役割として、大館の子どもたち、教員、市民の皆様のための施策であるべきだということを見失ってははいけませんので、相手方の望むとおりに行うことがこちらにとって良いことなのかということは、常に考えなければいけないと思います。 例えば、こちらも教員のためにならないとか、負担が余りにも大きすぎるとか、そういったことが想定される場合にはお断りすることも考える必要があると思っています。以前は直前に申し込んでも受け入れていたのですが、現在は申し込みフォームに締め切りを明記しています。そうすることによって視察受け入れ校の調整ができるので、工夫しながら行っています。
委員	上辺だけを見てしまうと、視察に来て、見て、帰るだけと感じる方もいるかもしれません。私たち教育委員も、教員の皆さんが本当に苦勞されているところを実際に見ていますので、大館のためになっている施策ということを積極的にアピールしていただきたいと思います。

委員	点検・評価表の２０ページですが、課題等の項目の中に、「次世代校務ＤＸ環境整備の入り口として、校務系と学習系ネットワークを統合したが、今後は校務用端末と指導者用タブレットを統合し、教職員も１人１台環境にすることの検討が必要」としっかり明記されていました。 先ほどご指摘がありました、教育ツーリズムによる「本質を追い求める教員が集う街」の実現という点検評価項目の、本質というところにも結び付くツールだと思いますので、しっかりとご準備いただけるようお願いします。
学校教育課長	教員の皆さんのタブレット端末はそうなのですが、校務支援システムは現在ノートパソコンで運用しています。ノートパソコンにつきましては令和５年度から３年間で更新計画を進めていまして、今年度が最終年度となり、更新台数は年間約１５０台、合計約４５０台の予定です。 今回更新したノートパソコンが次の更新時期を迎えた際に、また同じくノートパソコンを購入、リース等するのではなく、タブレット端末との統合によって経費削減を検討していくということです。
教育長	ほかにございませんか。 ないようですので、協議第９号及び第１０号について説明をお願いします。
各課長	（「協議第９号 城南小学校校門前の除雪機による賠償事故に関する専決処分について」 「協議第１０号 令和７年度一般会計補正予算（第１号）案」 を、資料により説明）
教育長	ご質問等はございませんか。
委員	教育総務課にお伺いします。小中学校のＬＥＤ照明化工事についてですが、実際に工事を行う期間は夏休みを想定しているのでしょうか。
教育総務課長	補正予算の承認後すぐに契約を締結したとしても、夏休みだけで全ての学校の工事を終わらせるのは難しいと思われます。今年度中に終わらせることを目標として、学校側とも日程調整を行い、学校運営に支障がないように進める予定です。
委員	ご配慮のほどよろしくお願いします。
教育長	これは体育館も対象になっているということですね。
教育総務課長	そうです。体育館用照明ランプの方が先に製造終了しますので、対象となっています。

教育長	体育館は工事の日程調整が大変かもしれませんが、ＬＥＤになれば点灯も早いので非常に助かりそうですね。
委員	部活動がありますので、特に中学校の体育館は日程調整が大変そうで心配していました。
教育長	ほかにございますか。 ないようですので、その他に移ります。
各課長	(「一般財団法人大館市文教振興事業団 指定管理施設令和６年度事業報告」 「第１回市長との政策協議について」 を、資料により報告)
教育研究所長	(「令和６年度 秋田県学習状況調査 児童生徒質問調査について」 「大館ふるさとキャリア教育 みんなのまなびしんぶんについて」 を、口頭で報告)
教育長	ご意見、ご質問等はございませんか。
委員	市長との政策協議の説明にありました、教育環境充実のための計画的整備について、これまでも何度かお話していますが、学校施設の課題として、もちろん施設の老朽化に伴って破損や故障が頻繁に発生し、改修工事や修理で対応していかなければいけない状況ではあるかと思いますが、想定されるリスクを少し大きく見ておく必要があると思います。 何らかの事故が発生すれば動くことになりますが、その前に対策を立てておくリスクヘッジが重要になってきますので、こういう形で施設老朽化に対応していくとすれば、もう少し幅広いリスクを想定しながら対応していただきたいと思います。もちろん優先順位はあると思いますが、各学校から要望されていることも含めて、考えていただくようお願いします。
委員	同じく市長との政策協議についてです。学校教育課からご説明のありました小中学校統合再編に向けた取り組みについて、年間の出生者数が２００人を切るであろうということから、待ったなしであることと、数字だけを見ると中学校は１校だけでよいということも理解できるのですが、地域の実情を考えると非常に難しい部分もあると思います。 ここは皆さんの知恵と、他自治体の実績等も学びながら、大館にとってベストな方法を編み出していただけるとお願いしたいと思います。
教育長	少子化の問題については、私も過去１０年間の子どもの減少数を調べてみました。１０年前から５年前までの５年間と、５年前から昨年までの５年間における平均のマイナス値を比較してみると、１０年前から５年前は１年間

	に約１２０人ずつ減少していましたが、５年前から昨年度までの５年間は約１７０人ずつでした。こういう言葉を使うと危機感をあおるように聞こえるかもしれないのですが、加速度的に減少しているという状況ですので、いずれにせよ考えていかなければいけない課題だと思います。 ただ、先ほどご指摘があったように、地域の方々の思いとか、様々な実情があると思いますので、例えば予算とか、施設の維持管理とかのいわゆる財布の面のみをもって進めることはできません。あくまでも、大館がこれまで行ってきた教育を維持できるかどうかであって、それを加味しながら進めていかなければならないと思っています。
委員	３０代の人口について、やや減少はしているものの、キープされている時期があったというお話を、以前どこかのセクションから伺ったことがあるのですが、それでもやはり子どもは減っているのですね。若干期待をしていたのですが。
教育長	最近は減り方が増えていると実感することが顕著ですね。
委員	余談ですが、先週、ある関東圏の市を訪問した際に、新築の小学校があったのでお話を伺ったところ、１学年に６クラスあるとのことでした。都市部ではそういう学校が建っているのですね。いかに都市と地方に大きな差があるのかを考えさせられました。
委員	学習状況調査の児童生徒質問調査について、データの提供をしていただきありがとうございました。おおむね良好だということを把握できました。 質問紙の内容というのは、県や全国においても、今求められている事柄や力に関する項目が含まれていると思うので、大館型学力に関する項目だけでなく、ぜひ全体を把握しながら進めていただければと思います。 特に全国の質問紙では多数の項目があって、例えば生活習慣であるとか、人間関係であるとか、いわゆるウェルビーイングに関することとかもあります。これらはいじめや不登校といった課題にも関連してくると思うので、結果を対応に生かしていただきたいと思います。
教育長	ほかにございますか。 では、予定されていた議題については以上で終了いたします。
教育総務課長	（「来月の開催日程」について）
教育長	委員の皆様から何かございませんか。 それでは、以上を持ちまして、教育委員会会議を終了いたします。
	会議終了時刻 午後５時００分